白老町議会 議長 山本 浩平 様

白老町議会議員 山田 和子 印

# 派遣成果報告書

日 時(期 間)	自 平成30年11月 5日(月) 至 平成30年11月 8日(木) 3泊4日
目 的 地	大分県竹田市、豊後高田市
調査事項	将来を見据えた観光振興の取り組みについて
視 察 の 成 果 (具体的に)	別紙のとおり報告いたします。

※ 必要の都度、写真その他を付加して、研修効果が現れる工夫をする。

## ①【大分県竹田市長の講話「温泉活用とまちづくり」】

### 視察先 大分県竹田市

人口 21.993人(平成30年10月末現在)

2005年(平成17年)4月1日、旧竹田市、直入郡荻町、久住町、

直入町が合併し、新市制による竹田市が誕生。

大分県の南西部に位置し、山脈に囲まれた水と緑が溢れる自然豊かな地域。直入町に「炭酸泉」「炭酸水素塩泉」の2種類の源泉を有する長湯温泉がある。岡城の城下町として風情のある街並みを有する。

### 対応 首藤勝次市長・久保議会事務局長

首藤市長は大分県直入郡直入町長湯出身、現在65歳。

同志社大学中退し父親の死去に伴い帰省。直入町役場に就職。

2001年(平成13年)3月、退職し有限会社大丸旅館社長に就任。

2002年5月-2009年(3期)大分県議会議員就任

2004年(平成 16年)2月、国土交通省の第5回「観光カリスマ」に選定される 2009年4月24日竹田市長就任 - 現職 (3期目)

役場職員時代に「全国炭酸泉シンポジウム」を開催し炭酸泉の希少価値を認識し、温泉療養の世界的先進地であるドイツに学びに行った。その後「西洋と日本の温泉文化フォーラム」の開催成功を経て「小さな町の大きな挑戦」が話題になり、直入町に炭酸泉と国際交流のイメージが定着していく。

「ドイツのような温泉療養地を目指す」という昭和初期(昭和8年頃)の文献資料の発見から温泉を飲む文化を花咲かせようと欧風の飲泉場を整備、さらに個性あふれる療養文化館(公衆浴場)「御前湯」を整備し、日曜日となれば駐車場は県外ナンバーの車で埋め尽くされるほどの盛況ぶりだ。現在は温泉利用型健康増進施設「クアハウス」(総工費約5億円)を建設中で、日本初の「温泉療養保険システム」を利用しこれらの温泉を活用した健康づくりを推進している。

#### \*\*感想\*\*

多忙な首藤市長のお話は1時間という短い間であったが、中身の濃い印象深いものだった。「地域遺伝子」という先人の思いや願いが、後世に伝わり時空を超えて成し遂げられるという考え方は、地域の宝を再発見し価値を高めていくものである。白老町においてもきっと「地域遺伝子」はあり、こういう地域であってほしいという強い思いがあるはずで、まちづくりにおいて、リーダーはその思いを行政力・町民力とともに成し遂げてほしいと感じた。

## ②【竹田市都市再生まちづくり基本計画について】

対応 竹田市役所 都市デザイン課 渡辺課長

竹田市は人口減少・中心市街地の空洞化などの問題に対し、まちの活力を維持するために「都市再生まちづくり基本計画」(10年計画(H26~H35年度)市の独自計画)を策定し具体的な指数目標を掲げ取り組んでいる。

## 『まちづくり基本方針』

- ①城下町の風情を活かした観光拠点づくり
- ②市民が日常的に利用できる中心市街地づくり
- ③歩いて楽しいにぎわい商業地づくり
- ④安心して快適に生活できる居住地づくり

視察時は③の為に電線類等を地下埋設する工事が行われていた。

- ①の為に歴史文化交流センター『ナガヤモン』・城下町交流プラザの整備 を行う。
- ②の為にコミュニティーセンター『トオリニワ』の整備を行う。
- ④の為にニーズに応じた定住促進住宅が整備され、新図書館が完成していた。子育て世代の為に児童公園「竹の子ひろば」(遊具が充実している)が整備済で、今後『こども診療所』が整備される。

再生に向けた具体策として、観光客を中心市街地に誘導するための戦略と まちなかを回遊させるための戦略がある。

中九州地域高規格道路の延伸により、大分方面から最初に降りるところが 竹田となる。城下町そのものを「道の駅」として中心市街地へ導線を描き、 将来熊本方面への高規格道路が整備されたとしても竹田には必ず寄る仕組 みを構築しなければならないという強い思いが計画には込められている。

#### \*\*感想\*\*

平成24年の豪雨災害に見まわれ、歴史に幕を下ろした竹田文化会館が竹田市総合文化ホール『グランツたけた』として蘇っていた。内覧させていただいたが、座席数698席、クラシック演奏会やオペラ、バレエ、講演会等といった、様々なニーズに対応できる音楽ホール「廉太郎ホール」は圧巻だった。この文化ホールを含め、子ども診療所や竹の子ひろばと連携し、賑わいの相乗効果を発揮している。10年後の将来像を見据えたまちづくりはビジョンが明確で推進力が感じられた。

### ③【大分県「故郷愛で地元の活性化に挑戦する若者たち」講話】

対応 WOOD HOUSE株式会社
Win with famiiy株式会社
代表取締役 氏田善宣 氏 (竹田大使)

急激な人口減少、高齢化率日本1になったことのある竹田市で、地方創生を飲食業を通じて行うという使命感に燃えて、革命的な挑戦をし続けている。

博多で修業し、博多でもつ鍋専門店を開業しようとしたが、故郷竹田の過疎化を目の当たりにした時、自分にできることで竹田市を元気にしようと博多ではなく竹田市で開業した。たった一人で頑張りながら同級生にも一緒に竹田を盛り上げようと誘い、焼き肉店出店、もつ鍋宅配、全国発送と売り上げを伸ばしていった。

「居酒屋甲子園」という全国に自分たちの思いを発信できる場所で、2014年第9回大会で優勝、2015年第10回大会で準優勝したことも未来を切り開けた要因である。

竹田の為に大分市でも出店し、さらに竹田市に加工食品卸事業の会社を設立、 目標は年商5億という。

#### \*\*感想\*\*

様々な失敗を糧に、成長し続けている氏田氏の情熱に感動した。氏田氏の歩 みはマンガ本にもなっており、発信力の高さにも感心した。

「若者の人口都市集中も悪いことではないが、その1割でも2割でも地方で輝ける社会。子供たちがこの町に戻ってきたら、この町で働きたい。そんなことを10年後、20年後に感じてもらえるような模範的な結果をだす企業でありたいし、人でありたい。挑戦していく事が僕たちの明るい未来に必ずリンクしてくると思う」と語る氏田氏。本当の地方創生はこういう情熱のある若者が多く活躍することと感じた。同時に、地域の人々もこうした若者を応援していく姿に感動した。



「竹の子ひろば」



「定住促進住宅」



「総合文化ホール グランツ」



「御前湯」



グランツ内の「廉太郎ホール」

## ①【大分県豊後高田市「観光まちづくり会社」について】

## 視察先 大分県豊後高田市

人口 22.827人(平成30年10月末現在)

大分県の北東部、国東半島の西側に位置し、北は周防灘に面し豊かな自然と温暖で過ごしやすい瀬戸内海気候に属している。

奈良時代後期の宇佐神社(神輿発祥の神社)の影響を強く受け「六郷 満山文化」を開花させた。

住みたい田舎ランキング 6年連続ベスト3入りで

高校生までの医療費無償化、小中学校の給食費無料化など子育て支援 が充実している。

対応 豊後高田市観光まちづくり会社 小池氏

(豊後高田市役所商工観光課執行)

社 名 『豊後高田市観光まちづくり会社』

設 立 平成17年11月11日

資本金 95.000.000円

豊後高田市 70.000.000円 (74%)

豊後高田市商工会議所 5.000.000 円 (5%)

金融機関 (5社) 20.000.000円 (21%)

役員 3名 従業員 本社31名 案内人5名 子会社 7名

基本理念 地域振興及び中心市街地振興のため、商工業・農林水産業と

連携した観光事業の推進に寄与する。

そのため、「昭和のまち」を観光拠点として確立させる施策を 推進するとともに、周辺地域との連携を図り、交流人口及び観 光消費額の増加をめざす。

#### 事業内容

- ○『昭和の町』・ロマン蔵の魅力である「懐かしさ」にこだわったイベント 実施による集客の向上
- ○近隣市との連携による「六郷満山開山 1300 年事業」等を活かした『国東半島観光』への誘客促進や日本版DMOを目指す豊の国千年ロマン観光圏との連携強化による相乗的な集客力の向上
- ○「山」「里」「海」「温泉」「食」等の市内観光資源との連携強化による 相乗的な集客力の向上
- ○地域特産品の開発による観光消費額の増進とアンテナショップ等を最大限 に活用した販路拡大の促進
- ○体験観光型コンテンツの開発強化と旅行業2種を活かした着地型旅行商品

の企画・造成・販売の強化

○外国人観光客の誘客に向けた営業活動や情報発信及び受け入れ態勢の強化

まちづくり会社は平成7年4月に準備室を開設し、設立したのは平成17年11月である。熟議が行われたと予想される。

観光拠点施設である「昭和ロマン蔵」(東蔵・北小蔵・南蔵・北蔵)の運営や昭和のまち商店街の案内を通じて「昭和のまち」の交流人口を増加させる施策を推進している。主な収益は駐車場料金・発券手数料などで、黒字経営である。

誇るべき町の個性をこの町にしかない町づくりを旗じるしに、平成8年度に「豊後高田市ストリート・ストーリー」を制作し『昭和の町』の魅力を高めた。建築再生を推進する平成13年度の「大分県地域商業魅力アップ総合事業」(街並み景観統一整備事業分)においては、総論賛成各論反対、自己資金3分の1の出費を受け入れる店舗はわずか3店舗であったが徐々に増え11店舗が木製やブリキ製の看板や木製の建具に変えて昭和30年代の趣を再現した。

同年「豊後高田市1店1宝等展示施設整備事業」では、その店に代々に伝わる珍しい道具等(茶箱や肉切機、洗濯機等)の展示を行い、8店舗が取り組んだ。

その後も『昭和の町』修景づくりは続き、現在では次ページの案内図の町並 みとなり年間約40万人の観光客が訪れている。

#### \*\*感想\*\*

「昭和の町」を案内人の井上氏と散策した。博物館や美術館などこうした場所は解説していただくことにより、理解が深まり楽しい。井上氏は開設当時から案内人をされているが、当初すぐにお役御免になると予想していた。観光客がこなくなると考えたのだ。しかし、その予想に反し観光客は年々増え続けた。

平成13年25,712人から平成15年には202,334人と増え、 ピークは平成23年401,036人の入込数となり、その後も平均40万弱 をキープしているという。大と猫しか歩かない悲劇の商店街に賑わいが戻って きたのだ。

看板などの建築再生や1店1宝の歴史の再生、1店1品の商品の再生とともに、昭和の商人の再生にも取り組んでおり、お店の方々が親しみを込めて話しかけてくる様子はまさに昭和の商店でのお客とお店の会話のやり取りが再現され、会話もせずに済んでしまう現在の買い物風景にはない暖かみ感じた。そこにしかない個性を最大限に生かした町づくりの成功例として大変参考になった。まちづくり会社のコンセプトもしっかりしていると感じた。





(旧共立高田銀行)

玉津東天紅

<sup>桂橋</sup>

5 JAZZ

PATISSERIE かい

#### 昭和の町展示館

- ●昭和8年に建てられた和風作りと言われる建物で、元は大分合同 銀行、高田信用組合と、金融機関として使用されていました。
- ●タイムスナップ新聞として、昭和30年1月から昭和39年12月まで 10年間の大分合同新聞(1面)をご用潤しております。
- ●昭和の町オリジナルグッスも販売しています。
- ●昭和の懐かしい映画ポスターを多数展示しています。
- ●『昭和の路地裏迷路』は、おとなも子どもも楽しめます。
- ★開館時間: 平日午前10時~午後4時 ★休館日: 火曜日 土日祝日10時~午後5時

# 昭和ロマン蔵

昭和の夢町三丁目館 駄菓子屋の夢博物館

チームラボギャラリー昭和の町

休館日: 12月30日・31日

営業時間/9:00~17:00

レストラン 旬彩 「南蔵」 定休日/不定休 営業時間/11:00~17:00